

カーゴニュース



河田 榮司さん

○：「物流不動産投資は世界経済の激変もあり、資金調達が難しく、着工数が縮小している。今は新しい倉庫がなく、既存の倉庫を埋めている状態。これからは量的供給から質的供給に移行するのではないか」というのはイーソーコ総合研究所の河田榮司社長。先頃行われた日本物流不動産評価機構推進協議会（JALPA）の第三回セミナーで「激変する物流不動産市場 その実態と新潮流 勝ち残り戦略とは」と題して講演を行った。「不況のなか、物流不動産市場のプレイヤーも変わってきている。以前は物流も含めた不動産、金融といったところの資金が入っていたが、今は中国、ロシア、インドといった『エマージングマネー』の進出が多くなっている」と述べ、新しいラウンドがすでに始まっていることなどを述べていた。

物流不動産に新たなマネー